

## ANA 機体メンテナンスセンター見学 ー2015年4月度 ATIS 例会

今月は、人気の高い施設でやっと実現した ANA 機体メンテナンスセンター見学を主体とした企画です。60名超えの参加を得て、皆さんから多くの好評の声を頂きました。

見学に先立ち大講義室にて基礎知識を教えて頂きました。羽田空港の概要として、4つの滑走路を有し風向きによって使い分けされること、国際線と国内線の発着は年間 44.7 万回 (1200/日)、利用者は 6076 万人、メンテナンスセンターの位置等の紹介。次に、ANA 使用飛行機の種類を特別塗装機で説明を頂きました。クジラを描いたマリーンジャンボ B747、FLY パンダとゆめジェット B767 機、ピースジェット B777 機、後方に波型塗装した B787 機など人気塗装機種が紹介されました。



最新鋭機の B787 には、胴体素材に炭素繊維複合材が使用され軽量化されるなどして燃料効率が 20%アップしたこと、エンジン後方にシェブロンノズルの採用でジェットエンジン音が低減したこと、縦に 8cm 大きい客室窓や照明 LED(にじいろも可能)の採用さらに機内加湿機装備など顧客サービス品質向上されたことなど、多様な革新技術が採用され

ています。講義会場には、飛行機に使用されている部材の展示もあり、特に B787 に使用されている新素材は軽量化が図られた材料と構造である事を体感できました。



次に、空港の仕事について約 15 分の DVD で紹介頂いた。到着した飛行機が、翌日の出発までどのような作業の流れの中で各担当部門の仕事と役割が紹介され、如何に各部門の皆さんが安全運行の維持向上とサービス品質向上に対し責任感を持って行動・実践している事が伝わるものでした。改めて飛行機が安全

で定時運行を実現し、それを維持する為多くのスタッフが支えている事が理解されるものでした。

その後格納庫に案内され、整備作業中の実機の見学となりました。同時に 8 機の整備に対応できるという巨大な格納庫で、見学当日は 3 機の整備が行われていました。格納庫全貌を見渡せる 3F の見学デッキから整備中の飛行機見学のはじまりです。空港で遠目にも主翼の大きさはイメージできていましたが、間近で見ると水平尾翼でさえも想像以上に大きい印象であり、垂直尾翼の先は 3F デッキから遥か上方の高さにありました。次に 1F のグラウンドへ行き、整備中の飛行機を見学。目の前には巨大なジェットエンジンのタービン羽、主翼下部には内部点検窓部の存在、静電気を放出させるための翼などに幾つかある放電索など遠方からでは分からぬところまで確認できます。巨大な飛行機の繊細な機構部分に気付かされるものでした。最後に飛行機を背景に全員で記念撮影を行い見学は終了しました。

見学後大田区産業プラザに行き、懇親会会場を借りての代表幹事報告、その後恒例の懇親会となりました。